



もっと知りたい!

# 日本とオーストラリアの違い

P8、9のアンケート結果から日本人とオーストラリア人の大きな違いがいくつか見えてきました。パースならではの「門出」をするためにも、「その違いはなぜ？」をオーストラリア人の「生活」「余暇」「仕事」「家族」の4つのジャンルに分けて徹底検証してみました!

## オージーの生活

アンケートのQ1とQ2から日本人とオーストラリア人の睡眠時間に違いが隠されているようです。また、日常生活の中にもヒントがあるようです。検証結果を踏まえ、オーストラリアでの「生活」の仕方の工夫を編集部から提案します。

### オージーは早寝早起き!?



オーストラリア国内には、時差(①)やサマータイム(②)があります。各州に支社がある全国規模の企業では、東部時間が基準になる場合が多いため、パースでは朝6時に家を出る人も珍しくありません。そして、パースの商業施設の営業時間も法律で定められているため、日本のような夜にショッピングといった習慣はほとんどありません。こういった理由から、朝早くに起きて、夜の就寝も比較的早いという生活が生まれているのでしょう。

#### ①時差

769万2,024平方キロメートル(日本の約20倍)の面積を誇るオーストラリアには時差が存在します。東部、中央部、西部の3つに分かれ、パースのある西オーストラリアを基準にした場合、クイーンズランド州やニュー・サウス・ウェールズ州、ビクトリア州、首都特別地域、タスマニア州の東部は2時間早く、ノーザン・テリトリーと南オーストラリア州の中央部は1時間30分早くなっています。

出典: Australian Government

#### ②サマータイム

オーストラリアには、Daylight Saving Time (DST) というサマータイムがあります。10月1週目の日曜日午前2時から4月1週目の日曜日午前3時の間は、クイーンズランド州以外の東部で1時間、南オーストラリア州では30分時計を進めます。

出典: Australian Bureau of Meteorology

パースならではの「門出」提案

#### ① 就寝前にストレッチをする

就寝前のストレッチで血液循環を良くし、体をほぐしましょう。心身共にリラックスできるので、質の良い睡眠をとることができます。

#### ② 朝起きたら朝日を浴びる

太陽光には体内時計を調整する働きがあります。規則正しい生活を送るためには、朝日を浴びるのが重要なことの一つです。

### オージーは物事をハッキリ言う!?



オーストラリアは、多くの民族から成り立つ多民族国家(①)です。そのため、異なる文化背景をもつ人間同士では、曖昧な言い回しや細かなニュアンスが伝わらない場合があります。また、言語の構造から日本語は、一般的に文末に動詞がきますが、英語は主語の後に動詞がくるため、文章の初めに結論が述べられます。よって、英語は日本語よりも言葉が直接的に感じられると言われています。ここオーストラリアで、自分と異なる文化をもつ人やネイティブスピーカー(②)でない人も正確に意思疎通を図るためには、物事をはっきり伝えることが必要不可欠となります。

#### ①多民族国家

2014年6月30日の時点で、オーストラリアに住む人々の28.1%がオーストラリア国外で産まれているという調査結果が発表されています。実際にオーストラリア住民の約4人に1人が、オーストラリア出身ではないのです。

出典: Australian Bureau of Statistics

#### ②ネイティブスピーカー

オーストラリアで最も話されているのは英語で、国民の76.8%が使用しています。次いで、マンダリン語(1.6%)、イタリア語(1.4%)となっています。

出典: Australian Bureau of Statistics

パースならではの「門出」提案

#### ③ 英語の勉強をする

状況ごとに使うべき英語は異なります。その場の状況に合った意思表示を行なうためにも生きた英語力を身につけて、人との関係を築いていきましょう。

#### ④ 異文化交流をする

多民族国家であるオーストラリアには、様々な文化が混在しています。他文化を尊重し、理解しようとする姿勢をもちながら、交流を図ることが大事です。

# オージーの余暇

Q7のアンケート結果からオーストラリア人がなぜそこまで“旅行”に行けるのか、その“旅行”をするための「余暇」の使い方を検証してみました。また、オーストラリアでその「余暇」を楽しむための工夫を編集部から提案します。

## オージーは たくさん旅行をする!?

本誌アンケート調べでは(P9参照)、オーストラリア人は日本人に比べ、年に複数回旅行をする人が多いという結果がでました。オーストラリアは比較的新しい国家のため祭事が少なく、年間の祝日(①)が日本よりも少ないです。しかし、有給消化率が世界で最も低いとされる日本よりも、オーストラリアは年次有給休暇(②)が申請しやすい環境があります。また、オーストラリアは、個人事業主(③)が多いことでも知られています。フリーランスとして仕事を行なう彼らは、自分の意思で休みを都合することができるため、旅程も立てやすくなります。



### ①祝日

2016年から「山の日」が国民の祝日に追加されたため、日本では年間16日の祝日があります。一方、西オーストラリア州では、曜日との兼ね合いにより若干日数が上下することもあります。基本的に11～12日と日本より少なくなっています。

出典：日本国内閣府、Australian Government Fair Work Ombudsman

### ②年次有給休暇

オーストラリアでは年次有給休暇を“Annual leave”と言います。日本では、勤続年数が長くなるごとに年次有給休暇が取得できる年数が延びていき、最大1年間で20日の年次有給休暇となります。オーストラリアでは職種などにもよりますが、1年間フルタイムで働くことで基本、4週間分の年次有給休暇が発生します。

出典：日本国厚生労働省、Australian Government Fair Work Ombudsman

### ③個人事業主

2009年時点で、オーストラリア国内の実に29.5%が個人事業主だったという調査結果が発表されています。

出典：Australian Bureau of Statistics

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### ⑤ 自然と触れ合う

美しい自然に囲まれたパースは、年間を通して晴天日の多い街としても知られています。特に、夏の時期は雨が少ないので、アウトドアのアクティビティを満喫しましょう。

### ⑥ 計画を立てずに旅をする

計画通りの旅行も素晴らしいですが、スケジュールに縛られない旅も違った良さがあるはずです。安全の確保だけは忘れずに、自由な旅を楽しんでみてください。

## オージーは 運動を欠かさない!?

ウォーキングやランニング、サイクリングなどの運動をしているオーストラリア人の姿を見かけることは多いでしょう。実際、オーストラリア人の運動参加率(①)は、日本人に比べ高く、運動への関心の高さが窺えます。また、日本よりも長い日照時間(②)によって、例えば、仕事前後の時間を運動にあてることもできずし、運動参加率が高いというのも頷けます。また、自由に参加できるスポーツクラスも充実しており、ゼロから運動を始めたい人にとっても始めやすい環境と言えます。オーストラリア政府のスポーツへの助成金(③)も日本に比べて高く、政府が国民の運動を支援しています。



### ①運動参加率

2009年の運動・レクリエーション・スポーツ調査で、15歳以上のオーストラリア人の69.5%が、週1回は何らかの運動をしているという結果があります。日本では、週1回の運動参加率が45.3%でした。

出典：日本国文部科学省、Australian Bureau of Statistics

### ②日照時間

東京の年間平均日照時間は5.7時間、それに対してパースの年間平均日照時間は9時間とかなりの差があることがわかります。

出典：日本国総務省統計局、Australian Bureau of Statistics

### ③助成金

オーストラリアの2010年のスポーツ関連予算は、約3億1,058万ドルで、その内政府からの助成金は約2億4,803万ドルでした。それに対して、日本の2015年スポーツ関連予算は2,500万円でした。

出典：日本国文部科学省

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### ⑦ 朝の運動を取り入れる

朝日を浴びながらの運動はまさに一石二鳥。運動するのに最適な環境も整っているため、朝起きたらまず外へ出て体を動かしてみましょう。

### ⑧ スポーツクラスに参加する

体は動かしたいけど何をしたらいいかわからない、自分だけでは続けられないという方には、スポーツクラスがおすすめです。新たな出会いも期待できるかもしれません。

# オージーの仕事

オーストラリア人の転職回数（P9のアンケート結果）から、「仕事」の仕方や姿勢に焦点を当てて検証してみます。そして、オーストラリアでの「仕事」の仕方の工夫を編集部から提案します。

## オージーは転職を繰り返す!?

日本とオーストラリアの仕事に関する違いの最たるものとして、勤続（①）が多いか、転職（②）が多いかが挙げられます。近年、日本では終身雇用制度が崩れたと言われていますが、それでもいまだに長期雇用の慣習は根強く残っています。また、日本では長期的に働ける安定した職場を求め、大企業や公務員への就職を目指す人が多いと言われています。それに対し、オーストラリアでは長期の勤続は稀と言われ、終身雇用の保証のある企業はほとんどありません。それどころか、業績が悪化し、必要ないと判断されてしまえば、簡単にリストラされてしまいます。日本では社内ですべてをこなしていきませんが、オーストラリアでは転職を繰り返し、より良い待遇の企業に勤めることでキャリアを積んでいくのです。



### ① 勤続

勤続年数10年以上の日本人の割合は52%、それに対しオーストラリア人の勤続年数10年以上の割合は26%でした。  
出典：日本国内閣府

### ② 転職

オーストラリアで働く人の転職が多い理由の1つとして、転職活動がしやすい環境であるという点が挙げられます。その環境を作っているものの1つが、失業保険です。オーストラリアでは、日本よりも失業保険の内容が充実しています。そのため、職を探している人が経済的に後ろ盾を得た上で、転職活動に専念することができるとも言えるでしょう。  
出典：日本国厚生労働省、Department of Human Services

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### 9 的を射た勉強をする

オーストラリアの転職で大切なことは、専門的な勉強をすることです。希望の職種がある場合は、専門学校や大学などでその職種に直結した専門的な勉強をしましょう。

### 10 資格を取得する

知識と経験の他に企業にアピールできることは、所持している資格です。その資格が企業の求めるものであれば、採用までの大きなアドバンテージとなるでしょう。

## オージーの仕事は効率的!?

朝から全力で仕事をし、残業（①）せず、定時帰宅は当たり前、家族との時間を最優先するのがオージースタイルです。日本は「仕事のための生活」という考え方の人が多いようですが、一般的にオーストラリア人は「生活のための仕事」という考えを持っています。職種などにとらわれず、生活していくための収入があり、家族と過ごせる時間がたくさん取れれば、それで十分なのです。家族愛に溢れた彼らは、会社のデスクに家族や恋人の写真を飾り、それを見て仕事を頑張っている人も少なくないようです。日本人に比べ、ストレス（②）を減らし、仕事とプライベートの切り換えを上手にこなしているオーストラリア人、そんな彼らの効率の良い働き方は、間違いなく参考に値するでしょう。



### ① 残業

2003年のAustralian Bureau of Statisticsの調査によると、オーストラリアの約30%の人々が残業しているのに対し、日本では62.5%が残業しているということが2014年の厚生労働省の調べで明らかになりました。日本ではオーストラリアの倍以上の人々が残業をしていることになります。  
出典：日本国厚生労働省、Australian Bureau of Statistics

### ② ストレス

日本での「現在の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み、ストレスになっていると感じる事柄がある労働者」の割合は52.3%で、それに対しオーストラリアで強いストレスを感じながら仕事をしている人の割合は、わずか12.6%でした。  
出典：日本国厚生労働省、Safe Work Australia

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### 11 スケジュール帳を活用する

スケジュール帳を活用してタイムマネジメントを身につけましょう。スマートフォンやパソコンのタイムマネジメントアプリケーションを活用するのも方法の一つです。

### 12 家族や恋人の写真を飾る

家族や恋人の写真を会社のデスクに飾るもよし、常に持ち歩いて、眺めるもよし。日本人にとってはちょっと新鮮で、モチベーションアップにも繋がるでしょう。

# オージーの家族

P9のアンケートによるオーストラリア人家族のコミュニケーションに焦点を当てて検証し、オーストラリアでの「家族」との関り方の工夫を編集部から提案します。

## オージーは家族とよくコミュニケーションを取る!?

オーストラリア人の家族愛は、今回のアンケート結果にも顕著に表れました。週1回以上の連絡は当たり前、離れて暮らしていても家族と頻りに食事や買い物に行きます。これには、オーストラリアが移民大国①であることが大きく関わっているようです。文化の多様性を認識し、受け入れ、尊重しているオーストラリアは移民が社会や経済に深く関わっている世界でも稀にみる国です。大多数のオーストラリア人は、過去2世紀の間に様々な国からやってきた移民またはその子孫たちです。そのため世代が浅く、移民一世②の数も多くなっています。地理的に近くにいる親族が少ないからこそ、家族を大事にすることへと繋がっているのでしょう。



### ①移民大国

2009年までは、英国からの移民が最多でしたが、近年、インドからの移民が急増し、2012年度にはインド、中国、英国の順に変化しています。

出典：Australian Bureau of Statistics

### ②移民一世

2006年の調査では、人口の約40%以上の両親、もしくはどちらかが海外生まれで、また人口の22%は海外出身者でした。

出典：Australian Bureau of Statistics

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

### 13 ネット環境を整える

離れているからこそ、連絡は頻りに。そのためには、ネット環境が重要です。ポケットWi-Fiの購入や携帯プランの見直しなどで、ネット環境を整えて、連絡を取りましょう。

### 14 感謝の気持ちを手紙やプレゼントで伝える

手紙やプレゼントで気持ちを伝えてみるのはいかがでしょうか。贈り物をするだけで気持ちが伝わるはず。大事なのは何を贈るかではなく、贈りたいという気持ちです。

## オージーの門出は早い!?

近年日本では、成人をした後も両親と同居①する若者が増加していると言われています。「実家暮らしのほうが経済的に楽」「実家なら家事をしなくても良い」など、理由には様々あるようですが、そんな彼らを社会問題視する声も上がっています。パラサイト・シングル②なる言葉が生み出されたことで、徐々にその認知度も高まっています。多くの国で、成人後はすぐに親元を離れ、ひとりで生活をするべきという風潮が強くなります。そのため、それらの国では親元を離れる際の経済的な負担を軽減する手段の一つとして、恋人との同棲や友人とのシェアハウスなどの生活スタイルが確立されました。オーストラリアもその例に漏れず、成人後に親元を離れる人数の割合は、日本よりも高くなっています。



### ①同居

日本国内の調査によると、2012年の9月時点で、20歳から34歳の人口、約2,116万人のうち48.9%にあたる約1,035万人が親と同居しています。また、オーストラリアの2006年の調査では、20歳から34歳の人口のうち約23%が親と同居していることが分かりました。日本では2人に1人、オーストラリアでは4人に1人の20歳から34歳の人々が親と同居していることになり、倍の差があることが分かります。

出典：日本国総務省統計局、Australian Bureau of Statistics

### ②パラサイト・シングル

「パラサイト・シングル」とは、学卒後もなお、親と同居し基礎的な生活条件を親に依存している者のことを言います。この造語は、1999年に、当時東京学芸大学助教授であった山田昌弘氏によって提唱されました。

出典：日本国総務省統計局

パース  
ならではの  
“門出”  
提案

読者の皆さんの中には、オーストラリア・パースを自らの新たな門出の地として選んだ人もいらっしゃると思います。日本を離れて、当地で新たな生活を送っている人がほとんどだと思いますが、日本と同じ“門出”を行なうだけでは、オーストラリアを新天地とした意味が薄れてしまいます。オーストラリアでの「生活」を満喫し、「余暇」を十二分に楽しみ、「仕事」も成功させ、「家族」を思いやる。それらができて初めてパースならではの“門出”を充実させたことになるでしょう。